

- cytochrome P450s in clomazone metabolism in *Echinochloa phyllopogon*. Plant Sci. 283, 321–328.
- Guo, F. *et al.* 2021. Investigation of clomazone-tolerance mechanism in a long-grain cultivar of rice. Pest Manag. Sci. 77(5), 2454–2461.
- Maeda, H., *et al.* 2019. A rice gene that confers broad-spectrum resistance to β -triketone herbicides. Science 365 (6451), 393–396.
- Saika, H., *et al.* 2014. A novel rice cytochrome P450 gene, *CYP72A31*, confers tolerance to acetolactate synthase-inhibiting herbicides in rice and Arabidopsis. Plant Physiol. 166(3), 1232–40.
- Scherder, E.F. *et al.* 2004. Rice (*Oryza sativa*) cultivar tolerance to clomazone. Weed Technol. 18, 140–144.
- TenBrook, P.L. and R.S. Tjeerdema 2006. Biotransformation of clomazone in rice (*Oryza sativa*) and early watergrass (*Echinochloa oryzoides*). Pestic. Biochem. Physiol. 85(1), 38–45.
- Zhang W. *et al.* 2004. Differential tolerance of rice (*Oryza sativa*) varieties to clomazone. Weed Technol. 18, 73–76.

田畑の草種

松葉海蘭 (マツバウンラン)

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

サクラの花が終わって、さあこれから春本番という時に、傷心の私は故郷へと、この小さな街に帰ってきた。街中のごんまりとした駅でローカル列車に乗り換えた。走り出した鈍行は駅を3つも過ぎると青々とした田園に行く。車内の向こうの席から高校生の男女が楽しそうに話している声が聞こえる。学年が新しくなって嬉しいのだろうか。

5つ目の無人駅で私は降りた。駅を出て左へ折れると2mほどの幅の道が続く。その線路際、高さ50cmほどのところが薄紫色の霞がかかったようにぼんやりとしている。その向こうを、今乗ってきた気動車が唸りながら走り、遠ざかっていく。一瞬、朱色の気動車の車体の下半分が薄紫に塗り分けられた。

霞の正体を確かめようと線路へと近づいてみた。高さ40～50cmほどのところで、1cmほどの青紫色の花がいっばいに咲いていた。膝を折って花に顔を近づける。小さな紫色の花は胸を反らせて両手を広げた人形ひとがたにも見えるし、大きく口を開けて「あかんべ」をしながら「白い」舌を突き出しているように

も見える。いや、白いふくらみを自らの鼻にあてるなら薄紫色の仮面にも見える。

その仮面が大笑して、しゃがみ込んだ私の膝小僧を見つめている。

遠藤由季の現代短歌にこんなのがあった。

オオバコ科マツバウンランむらさきの

小顔なる花わか膝を見つむ(短歌研究 2020年7月号)

マツバウンランはオオバコ科マツバウンラン属の越年草。関東以西から九州までの荒地、芝生、路肩、線路沿いの敷地、さらには駐車場のわずかな縁石の間などでみられる。茎は基部で数本に分かれ、走出枝を出し、先端に子株を作って広がっていく。花をつける茎は数本が束生し、高さ20cm～60cm。4月から5月頃、先端に、青紫色で大きさ1cmほどの仮面状の唇形花を穂状につける。北アメリカ原産とされ、日本では1941年に京都の伏見区で採集されたのが最初の記録とされているが、いつごろから帰化していたのかは定かではない。